

最後の授業

2021.3.1

本日、3月1日に、高校3年生を前にして「最後の授業」を行うとする。ねらいは、「親に感謝、親を大切にする」である。高校生の多くは、今まで自分一人の力で生きてきたように思っていないだろうか。親が苦勞して育ててくれたことを知らないのではないか。あるいは、そのことに思いを馳せる機会がないのではないか。

もし、卒業式の後に、3年生と保護者、全員に集まってもらって、最後の授業をしたら、次のようにしたい。

まず、座席だが、後ろに立っている保護者には生徒の席に座っていただき、生徒をその横に座らせる。そして、全員に目をつぶってもらい、こう話を切り出す。

「生徒の皆さん、今まで、お父さん、お母さんにいろんなことをしてもらったり、心配をかけたりにしてきたでしょう。それを思い出してみてください。入院した人もいれば、親子げんかをしたり、お母さんのお弁当に文句を言った人もいるかもしれない」そういう話をしているうちに涙を流す者が出てくる。

「あなた方を高校へ行かせるために、親は一所懸命働いて、そのお金をたくさん使ってきました。そういうことを考えたことはありましたか。学校の先生にお世話になりましたと言う前に、まず親に感謝してください」

そして「心の底から親に迷惑をかけた、苦勞をかけたと思う人は、今、親御さんが隣におられるから、その手を握ってみてください」と言う。

すると、一人、二人と握って行って、最後には全員が手を握り合う。それを確認した上で、こう話す。「その手がねえ、18年間あなた方を育ててきた手です。分かりますか。親の手をね、これまで握ったことがありましたか。あなた方が生まれた頃は、柔らかい手をしておられた。今、ゴツゴツとした手をしておられるのは、あなた方を育てるために大変な苦勞をしてこられたからです。それを忘れないでください」

その上でさらに、「18年間を振り返って、親に本当にすまなかった、心から感謝すると思う人は、今一度強く手を握ってください」と言うと、あちこちから嗚咽が聞こえてくるはずである。

そして、「では、こちらを向いてください。分かりましたか。私が最後に皆さんに教えたかったのはこういうことです。これで、親に感謝、親を大切にす授業を終わります」と言って教室を出ていく。振り返ると、親と子が抱き合って涙を流しているかもしれない。

今日は、3月1日である。福島県立高等学校の卒業式である。すなわち、高校3年生が親に感謝する日である。卒業生の皆さん、高校卒業おめでとう。